

## ま え が き

高層気象台では、職員による技術開発や調査・研究等の成果をとりまとめ、広く社会に知らしめることを目的として、1923年（大正12年）より高層気象台彙報を発刊してきた。今回は、第77号・78号の合併号としてお届けする。本号では、計6編の調査結果を報告している。それらは、長期的に精度の高い観測を保持・向上し、更にはその活用を促すための報告であり、ここに同成果を公開できてうれしく思う。

さて、高層気象台彙報のあり方については、第69号（2011）発刊に際し、印刷物と電子媒体の2本立てとして発刊を継続することとした。しかし、第77号では投稿数が1篇だったことから、当該報告を高層気象台HP上に公開（2020）する一方で、印刷物としての発刊は78号との合併号とすることとした。また、特別号として「高層気象台100年史（2021）」の発刊もあり、今回は実質3年ぶりの印刷物としての発刊となる。

高層気象観測を支える高層気象台として、技術開発や調査研究は現在でも重要な活動の1つとして引き続き取りくんでいる。一方で、近年の報告数の減少の主要因が職員数の減少等に起因している事に鑑みると、印刷物のままでは今後も発刊が遅れる事も懸念される。また、近年、電子媒体化が各所で進んでいる事も鑑み、今後の高層気象台彙報は電子媒体のみを発行し、調査結果をよりタイムリーに公開させて頂くこととするのでご理解頂きたい。

最後に、本号掲載の各報告の査読を行っていただいた内外各分野の専門家の方々に深く感謝の意を表すとともに、各業務に多忙な中、技術開発や調査・研究を遂行した当台職員の労をねぎらいたい。

高層気象台長 郷田 治稔